

## 研究主題等 特別支援教育における性教育を進めていくための実践と授業づくり ～児童・生徒が「すてきな大人になる・幸せになる」ための学習指導案の作成や模擬授業の実施～

### I 団体の概要

令和5年度から「東京都特別支援教育性教育研究会」として研究組織を立ち上げ、活動を再開した。昨年度は、7回の研究協議会を開催することができた。今年度も、令和7年度東京都教育委員会研究推進団体の認定を受け、研究協議会や講演会を行い、特別な支援を必要とする児童・生徒に対する「性に関する指導」「授業づくり」について研究を行っている。

### II 団体の目的

特別支援学校、特別支援学級等における性教育の在り方について、学習指導要領に基づき追究し、実践研究を積み重ね、成果を発信する。

### III 研究の内容

- ・小・中学部における「二次性徴」、高等部における「対人関係」について、グループ協議をしながら学習指導案の検討、模擬授業を実施。研究成果を報告会、報告書で都内学校関係者に発信する。
- ・教員、教育関係者向けの講演会を開催し、理解を広める。
- ・東京都性教育研究会と合同研究会を実施し、連携を深める。

### IV 活動実績

5月	・二次性徴に関する模擬授業 グループ協議
7月	・夏季特別講演①「性教育に関する基礎講座」
8月	・夏季特別講演②「卒業後につなげる対人関係」 -福祉の現場からの提言-
9月	・特別支援学校、特別支援学級における授業実践の報告・協議（都立特別支援学校高等部、千葉県における性教育）
10月	・令和7年度 東京都性教育研究会 研究協議会 「学校教育における性に関する指導」
12月	・研究のまとめ 実践報告（二次性徴、対人関係）
1月	・研究成果報告会
2月	・研究成果報告書の作成、配布

- 夏季特別講演は、7月は34名、8月は71名の参加者があり、性教育の必要性を感じて協議会に参加している教員が多いことを実感。
- 9月に行った授業実践の報告・協議は、他県の実践報告もあり、41名の参加者と充実した協議を行うことができた。

【参考】令和6年度研究成果報告の一部

**【実践】 特別支援学校（知的障害） 中学部1年保健体育（保健領域）学習指導案**

日時 令和 年 月 日（ ）  
対象 中学部 1年A・B組 12名  
学校名 東京都立〇〇特別支援学校  
授業者 男性教諭 2名・女性教諭 2名  
Tとして兼講教諭 1名  
会場 中学部1年A組・B組教室

1 単元名 「育ちゆくからだご（二次性徴）」

2 単元観

(1) 単元の指導目標

- ・思春期になると次第に大人の体へ近づき、体付きが変わったり、初経や精進などが起こったり、また、異性への関心が芽生えたりすることについて理解する。
- ・思春期の心や体の変化における自分の課題を見つけ、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしようとする。

(2) 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 思春期に、自分の体におけるような変化があるかを知る。（体の外側の変化）	① 男女の違いを理解し、他者との適切な関わり方について考える。	① 大人に学ぶことを前向きに受け止め、体の変化があることも度を超えて行動しようとする。また、異性互いに尊重しながら、適切に関わりようとする。
② 初経や精進など、二次性徴で体の中で起きることを知る。（体の内側の変化）		

(3) 単元について

本単元は特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示）第2章第2節第2款 中学部【保健体育】第1段階（2）内容 H 保健・健康・安全に関する事項について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 体の発育・発達やけがの防止、病気の予防などの仕方から、基本的な知識及び技能を身に付けること。

イ 自分や健康・安全についての課題を見つけ、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えたりすること。

ウ 課題を特定し、主に1段階の内容を扱う。

特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）には、保健領域に関して、次の記載がある。

**単元観（本単元の設定理由・根拠）**

- ・小学部における体育科「保健」では、各段階に共通する内容として「月経の指導」について、**個別指導を基本とするが、開始の時期や期間中の様子などに個人差があるため、各段階とも（中略）、不覚醒をもたないで知識を伝えられるようにすることが大切である。**また、3段階の指導内容には、「**初経や月経、精進への対応も含まれる。**」がある。
- ・中学部の保健体育の目標の解説では、「**女子の初経や月経の発現等に関する指導や男子の精進への対応など、他に関する指導を合わせて行う必要も考えられる。**」がある。
- ・中学部の保健体育の内容の解説では、**体の発育・発達に伴う初経や月経・精進などについて、「適切な対応を行うための科学的な動きや技能を身に付けること（評一原則）」「基本的な技能の発揮を習得し、自分で対応できるようにすること」**（第二段階）とある。**「基本的な技能の発揮を習得し、自分で対応できるようにすること」**（第二段階）とある。

【引用】特別支援学校 学習指導要領解説

**単元観（本単元の設定理由・根拠）**

- ・本単元に関して、**文部科学省発行『「まきる力」を育む小学校教育教育の手引』**において取り扱われている。
- ・**東京都教育委員会発行『性教育の手引』**では、「健康や体の変化の理解」として**小学部高学年（知的障害）を対象に、6時間扱い**で設定されている
- ・上記の内容を踏まえ、二次性徴が出そろうつつある中学部1年生において、本単元を設定することとした。

## V 具体的な今年度の取組

### (1) 二次性徴に関する授業づくり(5月)

模擬授業 「育ちゆくからだと私」

内容：指導者役と生徒役に分かれて、教師は実際にどのように言葉掛けを行い授業を展開するか、生徒はどのように受け止め、理解につながったのかなど役割を決めて模擬授業・グループ協議を行った。また、東京学芸大学附属特別支援学校の蓮香美園先生より3つの助言があった。

- ① 発達段階に応じた指導内容を調整し、分かりやすい言葉を使用
- ② 知的障害のある児童・生徒には、「やってみる」活動が有効
- ③ 保護者との連携、情報共有は性教育の実践を進める上で不可欠

### (2) 特別支援学校、特別支援学級における授業実践の報告・協議(9月)

報告①：高等部2年生を対象に実施した「生命の安全教育」についての実践報告では、自分の体の変化を肯定的に伝えることや異性の体についても理解を図ることでお互いを思いやることにつながったと報告があった。

報告②：千葉県における性教育についての実践報告では、高等部での取組、保護者・職員向けの研修の実施について報告があった。また、県教育委員会の研究指定で性教育を取り上げ、5年前から毎年、教育委員会主催の性教育研修会が行われていることの紹介もあった。



高等部の実践報告



グループ協議の様子(高等部)

### (3) 夏季特別講演会(7月、8月)

テーマ 「性教育に関する基礎講座」 (7月)

「卒業後につなげる対人関係」 (8月)

講師 東京都心身障害者福祉センター 山本 良典 先生  
 特定非営利活動法人 秋川流域生活支援ネットワーク  
 理事長 藤間 英之 氏

内容 性教育は「自分を知り、社会を知ること」、性的行動は「問題行動」ではなく「課題」と捉えることが大事であること。また、障害者が希望する結婚や子育てを支援するためには、当事者のニーズを否定せず、それに沿った支援を行うこと、性を権利として捉えることが重要であること。

## VI 第7回研究協議会(研究成果報告会)について

日時 令和8年1月24日(土)14時00分~16時30分

場所 国立オリンピック記念青少年総合センター

内容 (1) 東京都教育委員会挨拶 (2) 研究成果報告  
 (3) 記念講演 特別支援教育における「性に関する個別指導」  
 講師 宇都宮大学共同教育学部 准教授  
 とちぎ学校保健性教育研究会 代表 久保 元芳 氏

### <令和7年度連絡先>

団体名		東京都特別支援教育性教育研究会	
代表者	所属	東京都立小金井特別支援学校	
	職 氏名	校長 村山 孝	
	連絡先	042-384-6881	
事務局	所属	東京都立志村学園	
	職 氏名	主幹教諭 橋爪 淳	
	連絡先	03-3931-2323	
団体ホームページ	URL	東京都性教育研究会HPに掲載 <a href="https://toseiken-office.com/">https://toseiken-office.com/</a>	二次元コード